



目次	
巻頭言	1
特集 図書館利用者ガイダンス・講習会	3
本との出会いを楽しむ<18回>	6
デジタル・アーカイブの紹介	7
図書館に関する話題<18回>	8
Library News	10
本学教員等著作寄贈図書・資料一覧	12

読むことの愉しみ

理事（企画担当）・副学長 吉澤 篤



私が本を読むことに面白味を感じたのは 1976 年に大学に入学してからです。40 年以上前になりますが、下宿の部屋にはラジオだけで、テレビもオーディオも有りませんでした。もちろん、インターネットはまだ未来の出来事です。お金は無いけど時間はたっぷりありました。読書の場所は下宿であり、また喫茶店でした。気に入った本を小脇に抱えてクラシック喫茶に入り、1 杯 250 円のコーヒーの香りとセブンスター紫煙とともにブラームスの 1 番を聞きながら本のページをめくっていました。そこに何か目的があったわけはありませんが、本を読む愉しみがあり、今思い返しても至福の時間でした。柴田翔の『されどわれらが日々』から始まり、乱読しました。当時、1、2 年生は教養部に属し、3 年生から学部に入って専門教育を受けます。ぶらぶら読書の最後は、2 年生が終わった春休みに読んだ小出昭一郎著『量子論』です。内容を正確に理解できたわけはありませんが、3 年生の無機化学の講義で原子構造の説明を聞いたときに、量子論の物理的意味と化学が結びつきました。講義室での感動をはっ

きり覚えています。化学の面白さを知り、大げさかもしれませんが、人生が変わりました。私は工学部化学系の学生でしたので、午前中は講義、午後は実験、そして日曜日は実験のレポートや宿題で休みが終わりました。4 年生からは研究室に所属し、実験台と机を与えられました。そこで一日の大半を過ごすのです。研究室では実験に追われ、図書室へ行くのも文献調査としばしの休憩が目的でした。そこに毎週 1 回、退官後 10 年以上経つ名誉教授の先生（私が指導を受けた教授の恩師）が来られ、新着雑誌を読み、メモを取られていました。今の我が身を振り返り忸怩たる思いがあります。

私は 1985 年に博士課程を修了し、企業の研究所に入りました。その頃読んだ本が井本稔著『ナイロンの発見』です。主人公カローザスはハーバード大学の講師からデュポンの中央研究所に移り、そこで合成ゴムやナイロンを発明した化学者です。カローザスの日常というより思索の過程が日記風に綴られています。この本は何度も読み返し、企業での研究生活の拠り所としました。約 15 年間企

業で過ごしましたが、この時期に読んだ本から多くを学びました。読書は自らが経験できない他の人生の”追体験”だと思えるようになり、作者が登場人物に語らせる言葉に心引かれるようになりました。例えば司馬遼太郎著『坂の上の雲』や高杉良著『生命（いのち）燃ゆ』です。『生命燃ゆ』は昭和電工の石油コンビナート建設に尽力し、若くして病で世を去った技術者をモデルにしています。作者は主人公に「未練はあれど悔はなし」と語らせています。もっともっと生きたい、しかし、振り返って我が人生に悔は無い。何とすばらしい言葉でしょう。また、永田親義著『独創を阻むもの』では、独創的研究とは不安と危険に満ちた旅であり、次の物理学者ハイゼンベルクの言葉を借りて、コロンブスの勇気がブレークスルーには必要であると書かれています。「コロンブスのアメリカ発見の航海で最も困難であったことは、既知の陸地を完全に離れ、残余の貯えでは引き返すことがもはや不可能であった地点から、さらに西へ西へと船を走らせるという決心であったに違いない。」（『部分と全体』）。これは広く受け入れられている概念を放棄して新しい理論の世界に飛び込んでゆく勇気を例えたものですが、研究のみならず種々の場面で私たちが遭遇する決心や決断にも通じるところがあると思います。

私は2000年に会社を辞め、弘前大学に移りました。そこで実感したのは「教うるは学ぶことなり」です。「教うるは学ぶの半ばなり」（『礼記』）とい

う名言がありますが、私は民法学者末川博著『彼の歩んだ道』でこの言葉に出会いました。私にとって読書が国語の勉強のためだった高校時代に読んだ本です。そして、今、教えるための学びで図書館に通います。そこには学生時代とは全く違う学ぶ愉しみがあります。昨年も講義の準備のために入った図書館で30年間気になっていたことが解決しました。研究室で大学院生や4年生の研究指導をし、また、他の研究者の論文を査読することが多くなって、専門分野の文献の読み方も変わってきました。日本で最初にノーベル化学賞を受賞した福井謙一博士はその著書『学問の創造』の中で「文献を読む時は、字句の深層に横たわっているものを自分なりに補足しなければ本当に理解したとは言えないはずである」と述べておられます。研究論文を読むことで他の研究者の思索を”追体験”し、自分なりに補足して読んでいるうちに自らの研究に対して新しいアイデアが湧いてきます。

大学入学以降から現在までを、学生・大学院生（9年）、企業研究者（15年）、教員（17年）の3つに分けて本との関わりを振り返ってみました。そして今、カフェの片隅を書斎がわりにしていたフランスの哲学者のように、お気に入りの喫茶店で書を読み、思索にふけりたいと願っています。もし弘大カフェで私を見かけたら、カフェラテを飲んで休憩しているのではなく、仕事しているのだと思ってください。

（よしざわ あつし）

特集 図書館利用者ガイダンス・講習会 受講しませんか？

4月～6月にかけて、図書館では各種ガイダンス・講習会を集中的に開催しています。

まずは「**新入生ガイダンス**」。1年生の基礎ゼミナールの授業の1コマを使って、新入生向けのガイダンスを開催しています。授業を担当されている先生方からの予約制となっていますが、ほぼ全てのクラスが受講されているといっても過言ではありません。皆さんも写真のような集団がカウンター付近にいるのをご覧になったことはありませんか？新入生ガイダンスでは、入館ゲートの入り方から始めて、カウンターの案内、貸出・返却の仕方、予約や取り寄せについて図書館職員が説明します。実際に自動貸出機を使って貸出・返却処理も行います。(自動貸出機を使ったことがない人は簡単ですので是非使ってみてください。使い方は職員が教えますよ。)



新入生ガイダンス



OPAC 検索の説明の様子

カウンターの説明が終わったら、次は館内ツアーです。OPAC 端末、新聞、こぎん刺しの閲覧席などを見ながら2階へ上り、新着図書展示コーナー、コレクションコーナー、第1書庫の中に入って頭をぶつけながら(第1書庫の中は天井が低くなっている所があるので気を付けて!)、ラーニング・コモンズを見学します。アクティブ・ラーニング・エリアは予約なしで利用できます、個室のグループ・ラーニング・ルームは予約が必要です、オープンラウンジは飲み物の持ち込みが可能です(お菓子やお弁当は食べないでね!)、といった説明をします。ラーニング・コモンズ全体が飲み物 OK と勘違いされている方が非常に多いのですが、飲み物はオープンラウンジ&

オープンテラスだけですので、ご注意ください。その後、開架図書を見ながら雑誌棟 2F へ行き、新聞バックナンバーや縮刷版の場所を見て、電動書架の動かし方を学びます。(電動書架が動いた時に、オォッ!と驚きの声が上がると密かに嬉しくなります。)そして3階へ上がり、グループ・ラーニング・ルームに入って OPAC の説明をします。パワーポイントのスライドを見て眠くなりながら、最後は1階に下りてきて集密書庫で手動書架の動かし方を学び、退館ゲートでは貸出手続きしていない図書を持ち出そうとするときピーッという警告音が鳴りますよ、という説明を聞いて、建物外側のブックポストの場所を確認して終わりになります。

これでもう図書館の使い方は完璧!もし基礎ゼミで受講されなかった方がいましたら、個人向けのガイダンスに参加してください。もし何か分からないことがあったら、いつでもカウンターで聞いてください。皆様のご利用をお待ちしております。

(情報サービスグループ 長谷川 友紀)



図書館ガイダンス実践編

次にご紹介するのが、「**図書館ガイダンス実践編**」。参考調査担当の職員が、文献検索の仕方を教えています。「レポートや論文を作成するとき、参考資料の探し方が分からない！論文が載っている雑誌や、読みたい図書が弘前大学に無い！」という疑問に応えるため、レポートや論文作成に役立つ資料検索の方法について 70 分程度で説明します。

ガイダンスは二部構成で、第一部は「**図書編**」。弘前大学 OPAC での検索方法や医学部分館からの本の取寄方法、他大学や公共図書館における蔵書検索の仕方などについて説明をします。併せて他大学の図書館や青森県立図書館から附属図書館を通して本を借りられることも紹介しています。（前者は往復送料がかかりますが（有料）、後者は無料です。）

第二部は「**論文編**」。日本の論文を探す CiNii Articles というデータベースを使って論文検索の仕方を説明します。①電子ジャーナルで読む方法、②冊子体で読む方法、③論文のコピーを取り寄せる方法の 3 点についてお話しします。

第一部・二部とも、学生さんにパソコンを使って実践してもらい、スクリーンを見ながら一緒に検索をしています。また、第二部の後半では、実践として一人一人に課題を配ります。論文の情報で巻号数など欠けているところを調べてもらい、そのあとで書庫へ行き雑誌を探すというものです。皆さん、ガイダンスをしっかりと聞いてくれているので、ほとんどの方がスムーズに探すことができます。



書庫で雑誌を探している様子

アンケートを取ると「よく分かった」という声が多く聞かれます。この図書館ガイダンス実践編は春季と秋季に行っており、春季は 4 月～ 6 月末まで、秋季は 10 月～ 11 月中旬頃に行っています。個人でもグループでも受付可能ですので、是非お申し込みください。

（情報サービスグループ 齋藤 めぐみ）

さらに一歩進んだ専門的な講習会として、「**電子ジャーナル・データベース講習会**」を開催しています。図書館職員が説明するのではなく、外部の講師をお招きして、新聞のデータベース、法律のデータベース、電子ジャーナル ScienceDirect など、図書館で整備・導入している電子ジャーナル・データベースの講習会を行っています。講習会は主に授業とのタイアップで実施しておりますが、学内の教職員・学生であればどなたでも参加可能です。

講習会の内容としては、各データベース・EJ の概要説明、検索方法、検索結果の表示と保存方法等の基本的な使い方から、レポート作成や卒業論文執筆にも役立つ操作方法といった実践的な使い方まで、実習を交えながら専門家が解り易く説明いたします。

今年度開催を予定している講習会は下記のとおりです。開催日程が決定次第、図書館 HP やポスターなどでお知らせ致しますので、是非ご参加ください。

(資料管理グループ 白坂 恭子)

【講習会名】

1. 聞蔵Ⅱビジュアル(朝日新聞)・ヨミダス歴史館 (読売新聞)
(新聞記事検索データベース)
2. ジャパンナレッジ Lib
(辞書・事典総合データベース)
3. Westlaw Japan
(日本の法律データベース)
4. ScienceDirect
(エルゼビア社の電子ジャーナル)
5. Web of Science / JCR
(引用文献検索 / インパクト・ファクター検索データベース)



「聞蔵・ヨミダス・ジャパンナレッジ講習会」
(昨年度開催した時の様子)

【問い合わせ先】

「新入生ガイダンス」・・・情報サービス担当

Tel: 0172-39-3162 / E-mail: jm3162@hirosaki-u.ac.jp

「図書館ガイダンス実践編」・・・参考調査担当

Tel: 0172-39-3163 / E-mail: jm3163@hirosaki-u.ac.jp

「電子ジャーナル・データベース講習会」・・・雑誌情報担当

Tel: 0172-39-3157 / E-mail: jm3157@hirosaki-u.ac.jp

本との出会いを楽しむ 第18回

世界一の図書館

アドミッションセンター助教 小暮 克哉



私の専門は高等教育論という分野です。主に近代の高等教育の歴史に興味があり、研究の対象としてきました。そうした分野の研究者からすると、弘前大学図書館は、その前身校である、旧制高等学校や師範学校、弘前医科大学時代からの貴重な蔵書など、宝の山とすることができます。宝の山に徒歩一分で行ける環境にあることに何よりの喜びを感じつつ、色々な分野の本を読むことが何よりの楽しみでもあります。

そんな、本学図書館の中でも第一級の資料群として、最近個人的に関心があるのが、大正・昭和初期の官立弘前高等学校時代の行政関係の往復書簡など、本学の歴史的資料です。当然ですが、この分野の資料が世界で一番充実しているのが本学の図書館であります。世界一の図書館が徒歩一分。私にとっては、この上もない喜びです。

近年、色々な場所で大学史や自校教育の必要性が指摘されていますが、何故古い歴史に目を向ける必要があるのでしょうか。その答えの一つが、私の恩師である寺崎昌男先生の著書『大学の自己変革とオートノミー』の中にこんな一文として指摘されています。この指摘を思い出すたびに、高等教育史の研究意義を再確認させられます。

「現在の大学改革は戦後最大の改革だ、と言われることがある。だがそれは歴史の視野のも

とで見れば誤りである。いま問われているのは、決して新しい課題ではない。戦後、現在の大学が生まれた時期こそ真の変革期であった。大学が今直面しているのは、あのとき以来未達成の、また潜在してきた諸課題を整理し、未来を見据えながらそれをどうやって解決するかという難問である。」

最後に、私自身は、高大接続などのために高校生や高校教員と接する機会が多いのですが、その際に、「弘大の強みは何ですか?」「弘大ならではの学びは何ですか?」という質問をよく受けます。現在進行形の大学改革を説明するとともに、その改革の中に弘大ならではの歴史的な太い幹を見つけ出し、そこから話を進めることで、弘大がそれをする必然性が現れると考え、そうした説明を心掛けています。

図書館を利用する皆さんも今後色々な場所で弘大のことを話す機会があるかと思います。是非、「自分は何故弘大で学ぶことにしたのか」、「弘大で学ばなければ得られなかったことは何か」を笑顔で話せるようになってもらえれば嬉しいです。そのヒントは、皆さんも歩いて行ける附属図書館にたくさん詰まっているはずです。

本の紹介の予定が附属図書館の自慢話になりました点お許しください。

(こぐれ かつや)

小暮先生よりご紹介いただいた「大学の自己変革とオートノミー」(東信堂、1998年)は本館で所蔵しております。

所在：和図書(第1書庫2-5F) 請求記号：377.21||Te62 図書ID：06780735

官立弘前高等学校時代の資料群は貴重資料の扱いとなるため、利用を希望される場合は事前の書類申請が必要です。どのような資料を所蔵しているかは、目録をご覧ください。

「官立弘前高等学校資料目録：北溟の学舎(まなびや)の資料群」(弘前大学附属図書館編)

所在：弘前大学出版会コーナー 請求記号：A376.48||Ka58 図書ID：07744957

デジタル・アーカイブの紹介

「津軽領元禄国絵図写」について

附属図書館医学情報グループ 齋藤 香織

「津軽領元禄国絵図写」は、弘前大学附属図書館で初めてデジタル化した貴重資料です。この資料は2008年に長谷川成一附属図書館長（当時）が、未整理の館内資料の調査を行った際に発見したもので、命名も館長によるものです。「豊泉」第29号に発見した時の記事が掲載されています。

国絵図とは、端的に言って国ごとの地図です。江戸時代、数度にわたり、諸国大名への命によって、各所領地の国絵図が江戸幕府に納められたとされています。しかし、天保の国絵図を除き、保管されていた国絵図の大部分は、明治時代の皇居火災により焼失しました。津軽領の国絵図について、資料により作成が確認されているのは正保、元禄、天保の3回です。前述のように、正保と元禄の国絵図原本は失われていることから、弘前大学において発見された国絵図は原本ではなく写であると推察されます。原本が手元に無くなるため、控えとして作成されたのでしょうか。また、絵図にある年号の書き入れ、地名の表記等より、元禄国絵図に該当することが確認されました。

この資料の特徴の一つに、サイズが大きいということが挙げられます。約3.4m×約4.0mと、八帖間より若干大きい位の大きさです。デジタル化するにあたっては、絵図を細かく分割して撮影し、そのデジタルデータをつなぎ合わせて、大きな一つの画像に合成しました。撮影は絵図を広げた状態で行ったので、ある程度広い空間と櫓を組めるだけの高い天井が必要でした。

また、国絵図は、地名や村名等の文字が色々な方向に書かれています。固定の角度では、画面上で文字が読みづらいこともあるので、依頼した業者には図を回転できるようにしてほしいという要望を出しました。拡大機能もついていますので、任意の場所を拡大して読むことができます。

図にある沢山の楕円の中には、それぞれ村名と石高が書かれています。朱色の線は街道を、街道の両側に付いている黒点は一里塚を表しているそうです。現在でも地名が変わっていない地域も多いので、青森県出身・在住の人は知っている地名を探してみたいかもしれません。



余談ですが、この絵図は広げるにも場所を取りますし、広げた状態では中心付近が見づらいため、原寸大の複製を作成するのに加えて、縦横1/2ずつに縮小した複製も作成しました。縮小版の複製は現在、附属図書館の本館、資料館、附属病院に飾られています。

(さいとう かおり)

参考資料

- ・「豊泉」第29号 p.3 「『津軽領元禄国絵図写』について」 (長谷川成一著)
- ・『国絵図の世界』(国絵図研究会編、柏書房、2005年) 本館所蔵有 図書ID:07372972
- ・国立公文書館デジタルアーカイブ <https://www.digital.archives.go.jp/>

図書館に関する話題 第18回

教育研究基盤資料整備5ヵ年計画について

附属図書館資料管理グループ係長 佐々木 忠

附属図書館では、教育・研究内容に密接した資料の充実を計るために「教育研究基盤資料整備5ヵ年計画」を策定し、平成27年度から実施しています。

年度別の購入計画としては、次のとおりとなっています。

表1 年度別購入計画

年度	整備する資料
27	・アクティブラーニング（能動的学習）を強化するために、電子書籍を整備する。
28 ～ 30	・新しい教養教育や学部改組に関連した資料を整備する。 ・グローバル人材育成、地域志向型人材育成、イノベーション創出人材育成など教育研究支援のための資料を整備する。 ・「整備計画の見直し」を行う。
31	・見直しに基づく補充を行う。 ・「整備計画」の評価を行う。

過去2年間で整備した図書について紹介いたします。

【平成27年度】

アクティブラーニング（能動的学習）を強化するために、電子書籍を整備しました。主な資料は、

「Maruzen eBook Library」 (約900タイトル)

「メディカルオンライン イーブックス」 (約2200タイトル)

「化学書資料館」 (「化学便覧」・「実験化学講座」等が利用可能)

いずれも図書館のホームページ・OPAC（蔵書検索）から利用可能です。

平成28年度のアクセス件数は以下のとおりです。

表2 電子書籍アクセス統計

	平成28年度アクセス件数
Maruzen eBook Library	536
メディカルオンライン イーブックス	247
化学書資料館	7,025

【平成 28 年度】

学部改組した学部学科（人文社会科学部・理工学部・農学生命科学部）が多くあったことから関連する資料を整備することになり、改組に伴い新たに採用された教員に選定を依頼し、資料を購入しました。分類別に購入した冊数は以下のとおりです。

表 3 分類別購入冊数

	和書	洋書		和書	洋書
総記	29	1	産 業	85	3
哲 学	63	2	芸 術	26	0
歴 史	41	0	言 語	30	28
社会科学	344	4	文 学	15	0
自然科学	237	20			
技 術	189	14	合計	1,069	72

今年度の整備する資料は、表 1 のとおり大枠は決定していますが、詳細については、決定しておりません。今後、図書館内の委員会で選定方針を決定し、資料を購入する予定です。

前号で「図書館資料の選定・受入について」について記載しましたが、実際に貸出されているか集計してみました。

表 4 予算別貸出率 (%)

予 算 名	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度
教育学習支援図書購入費	64	65	54	49	35
教育経費基盤資料費	—	—	—	—	19
希望図書購入費	84	100	91	73	72
学生選定図書購入費	80	80	—	—	—
サンライズ寄付金	—	—	—	—	38
新刊図書購入費	64	69	82	77	—
継続図書購入費	64	69	65	61	63

この表 4 は、各年度の予算で購入した図書が平成 29 年 3 月 31 日までに貸出された回数を集計し、貸出率を算出したものです。数字が大きいくほど、購入した図書が貸出されていることになります。28 年度に購入した図書については、配架されてからの期間が短いため、貸出率も低くなっております。この中で平成 28 年度に購入予算がなかった「学生選定図書購入費」・「新刊図書購入費」は、過去のデータを見てみると高い貸出率であることがわかります。今後の図書の選定においてこのデータを参考として選定方針を作成したいと考えています。

(ささき ただし)

Library News

古本募金の回収ボックスを設置

平成29年4月11日、弘前大学附属図書館の本館と医学部分館に、それぞれ古本募金の回収ボックスが設置されました。

弘前大学基金「古本募金」は、在学生、卒業生、教職員、一般の方々から書籍（CD・DVD等を含む）を買い取り業者へ送付していただき、その売却代金を弘前大学への寄附金とする取り組みです。東京大学が始めた取り組みとして知られていますが、現在は多数の大学が行っています。古本募金による寄附金は、弘前大学では、学生支援、教育研究活動等に役立てることとなっています。

この古本募金は書籍等を5冊以上送付する場合は送料が業者負担で、Webまたは電話で申込可能です。直接業者へお送りいただくと、寄附者として名前が挙がり、また、買取価格が2,000円以上の場合は税法上の優遇措置を受けることも可能です。弘前大学ホームページに説明が載っています。

5冊より数が少ない、手続きが手間である、運送業者に取りに来てもらうのは都合が悪い、といった場合には、附属図書館に持ち込みすることもできます。回収ボックスの中に寄附したい書籍等を入れるだけでよく、申込書の記入や業者への連絡は必要ありません。図書館では、書籍等がある程度集まったところで、随時買い取り業者へ送付します。



本館に設置された回収ボックス



分館に設置された回収ボックス

「平成28年度附属図書館研修報告会」開催

平成29年3月29日（水）、図書館本館3階グループ・ラーニング・ルームを会場として、図書館関係者向けに「平成28年度附属図書館研修報告会」を開催しました。

この研修報告会は、研修成果の共有と図書館職員の意識向上およびプレゼンテーション能力の向上を目的として、平成26年度より継続して実施しているものです。今回は若手育成の観点から、企画・運営を全て若手職員が行いました。

当日は、本学図書館職員および学園都市ひろさき高等教育機関コンソーシアム加盟館の職員合わせて16名が参加し、各研修等に参加した職員5名が報告を行い、最後に中根附属図書館館長から講評がありました。


各人の発表内容のスライドは、図書館HP（<http://www.ul.hirosaki-u.ac.jp/local/kensyu/>）に掲載されています。（学内からのみ参照可）

本学関係者の著作で、図書館に寄贈された図書と資料の一覧

平成28年10月～平成29年3月分受贈分

学部名	寄贈者名	書名	発行所	数	所蔵先
人文社会科学部	Philips John Edward	Black Africa's largest Islamic kingdom before colonialism : royal ribats of Kano and Sokoto / John Edward Philips	New World Africa Press	1	本館 1
	山田 巖子	津軽の年占行事「七日堂祭(なのかどうまつり)」を考える : 青森県民俗の会×弘前大学地域未来創生センターシンポジウム記録 / 山田巖子編	弘前大学人文社会科学部民俗学研究室	1	本館 1
		潜在的な宗教者と知識の配置をめぐる民俗学的研究 / 研究代表者山田巖子		1	本館 1
	南修平	「ヘイト」の時代のアメリカ史 : 人種・民族・国籍を考える / 兼子歩, 貴堂嘉之編	彩流社	1	本館 1
	白石 壮一郎	Re-finding African local assets and city environments : governance, research and reflexivity / edited by Wakana Shiino, Soichiro Shiraishi & Tom Ondicho	Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa Tokyo University of Foreign Studies	2	本館 2
医学研究科	今泉忠淳	時計店 50 景 : 写真集 / 今泉忠淳著	水星舎	2	本館 1 分館 1
	麻酔科学講座	弘前大学大学院医学研究科麻酔科学講座開講 50 周年記念誌(1965 年-2016 年)・業績集(1999 年-2015 年)	弘前大学大学院医学研究科麻酔科学講座	1	分館 1
		弘前大学大学院医学研究科麻酔科学講座開講 50 周年記念誌(1965 年-2016 年)・業績集(1999 年-2015 年) (CD-ROM)	弘前大学大学院医学研究科麻酔科学講座	1	分館 1
保健学研究科		弘前大学大学院保健学研究科高度実践被ばく医療人材育成プロジェクト : 活動成果報告書 (平成 27 年度) / 弘前大学大学院保健学研究科高度実践被ばく医療検討委員会編	弘前大学大学院保健学研究科	1	分館 1
	大津美香	最新老年看護学 / 水野敏子 [ほか] 編	日本看護協会出版会	1	分館 1
		認知症の人の生活行動を支える看護 : エビデンスに基づいた看護プロトコル / 高山成子編集 ; 大津美香, 渡辺陽子編集協力	医歯薬出版	1	分館 1

弘前大学医学部 鵬桜会		最新ボタンホール穿刺法 / 當間茂樹 [ほか] 著	東京医学社	1	分館 1
		癌になったらやるべきこと、してはいけないこと / 横内正典著	たま出版	1	分館 1
		The origin and evolution of anesthesia in Japan / by Akitomo Matsuki	弘前大学出版会	1	分館 1
名誉教授	松木明知	The origin and evolution of anesthesia in Japan / by Akitomo Matsuki	弘前大学出版会	2	本館 1 分館 1
弘前大学出版会		グローバル下のリンゴ産業 : 世界と青森 / カーペンター・ピクター, 黄孝春, 神田健策編著	弘前大学出版会	3	本館 2 分館 1
		電気系の複素関数入門 = Introduction to complex functions for electrical engineering / 吉岡良雄著 : 長瀬智行共著	弘前大学出版会	3	本館 2 分館 1
		機械科学科基礎物理学実験の手引き / 弘前大学理工学部機械科学科編	弘前大学出版会	1	本館 1
		再生可能エネルギーで地域を変える / 久保田健, 神本正行監修	弘前大学出版会	3	本館 2 分館 1
		高葛藤紛争における子の監護権 : 弁護士実務の視角から法的課題を問う / 渡辺義弘著	弘前大学出版会	3	本館 2 分館 1
		The origin and evolution of anesthesia in Japan / by Akitomo Matsuki	弘前大学出版会	2	本館 1 分館 1
		白神学入門 / 弘前大学白神自然環境研究所編	弘前大学出版会	3	本館 2 分館 1
		三角形の独り言 / 本瀬香著	弘前大学出版会	3	本館 2 分館 1
		身近な道具で手づくりの本 / 関典子著 ; 佐藤光輝監修	弘前大学出版会	3	本館 2 分館 1
		戦うことに意味はあるのか : 倫理的横断への試み / 持田睦, 横地徳広編	弘前大学出版会	3	本館 2 分館 1
		知能機械工学実験・実習テキスト B / 知能機械工学科編著	弘前大学出版会	1	本館 1

	弘前大学附属図書館報「豊泉」第45号 発行日：平成29年 5月31日
	編集／弘前大学附属図書館広報委員会 発行／弘前大学附属図書館 〒036-8560 青森県弘前市文京町1 TEL 0172(39)3162 FAX 0172(39)3171 URL http://www.ul.hirosaki-u.ac.jp/

標題の「豊泉」は、明治9年の「仏国学制」付録上巻中の「人智ヲ広ムルノ豊泉アリ」の文に基づき、
 松原邦明名誉教授命名 題字：藤原楚水編「書道六體大字典」（三省堂）より